

日本語のカートグラフィー研究から導かれる理論的帰結

カートグラフィー研究の一環として、日本語の補文標識(Saito 2012)や終助詞(遠藤 2010, Miyagawa 2022)に階層構造が認められることが指摘されてきた。本発表では、階層構造の説明を提案したSaito (2015)の分析を概観し、その上で、分析の意味論および統語論に対する帰結を論じる。

I. 意味論における帰結

3.15 sat.

補文標識の[CP [CP [CP TP の] か] と]という階層性に注目して論を進める。この階層は、「の」を主要部とするCPが命題を表し、「か」が命題を表す補部とともに疑問文を形成し、「と」が疑問文でもありうる直接引用の言い換えを埋め込むことから導かれる。最初に提示する帰結は、表層的には疑問文と平叙文の双方を補部とする *know* などの選択制限に関するものである。この事実について、*know* が双方を選択するという古典的な分析(Lahiri 2002など)と表層的な疑問文が平叙文として解釈されるという分析(Berman 1990など)が提案されている。本論では、日本語補文標識の分布と意味解釈に基づいて、前者を支持する証拠を示す。第二の帰結は、補文の個別事象分析の適用範囲に関わる。Higginbotham (1983)は、知覚動詞補部の小節が個別の事象を表すとする分析を提案している。本論では、まず、この分析が、定形節CPである日本語の知覚動詞補部の性質も捉えることを示す。さらに、この結論をふまえて、やはり定形節CPである日英語の叙実動詞補部にもこの分析を適用することを提案する。

II. 統語論における帰結

3.16 sun.

談話小辞 [[[TP わ] よ] ね] に焦点を当てる。「わ」は、Tを選択するため、階層の最下位に位置する。「よ、ね」の階層は、それぞれが表す言語行為から説明される。「ね」などの小辞は、文中にも生じうる。文中の「ね」は、選択関係に介在しない。例えば、{{DP, ね}, V} では、VとDPの選択関係が成立する。一方で、「ね」は、*{{TP, ね}, わ} に見られるように、他の談話小辞の選択を阻む。こうした事実は、談話小辞が統語構造において「別次元」に表れることを示唆し、3次元モデルを支持する証拠となりうる。また、談話小辞はすべての構成素に後続しうわけではなく、DPやCPなど、フェイズとみなされる句にのみ付加される。本論では、Epstein, Kitahara and Seely (2012)の洞察をふまえて、解釈部門が2次元構造の転送のみを許容するという仮説に基づいてこの事実を説明することを提案する。この分析は、フェイズ補部ではなく、フェイズがスペルアウトされる(Bošković 2016など)ことを前提としており、この仮説を支持するものである。



講師 齋藤 衛 (ノートルダム清心女子大学特別招聘教授)

スタンフォード大学哲学科卒、大学院では言語学を専攻し、同大学修士課程およびマサチューセッツ工科大学博士課程(1985)を修了。南カリフォルニア大学(1984-1986)、筑波大学(1986-1988)、コネティカット大学(1988-1995)を経て、1995年から2022年まで南山大学教授。現在は、ノートルダム清心女子大学特別招聘教授。

共著書と著書に、*Move-α: Conditions on Its Application and Output* (1992, MIT Press), *The Free Word Order Phenomenon* (2005, Mouton de Gruyter), *Japanese Syntax in Comparative Perspective* (2014, Oxford University Press), 『日本語研究から生成文法理論へ』(2020年, 開拓社), 『生成統語論の成果と課題』(2024年, 開拓社)などがある。また、*Linguistic Inquiry*, *Journal of East Asian Linguistics*, *Studies in Chinese Linguistics*, *Language and Linguistics*, and *Linguistics* など専門誌の編集委員も務めている。



著書

司会・コメンテーター 内堀 朝子 (東京大学)、北原 久嗣 (慶應義塾大学)

使用言語 日本語

2025.3.15 sat. ~ 16 sun. 13:30~18:00 終了予定

会場 慶應義塾大学三田キャンパス 北館3階大会議室

参加費 無料

参加申込 参加を希望される方は、言語文化研究所ホームページもしくはQRコードよりお申込み下さい。
<https://www.icl.keio.ac.jp/colo/2025/02/202531516.html>



※準備の都合により、事前申込をお願いいたします。 ※事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。